

共に学ぶ

学校支援ボランティアセンター (SSVC)

第 25号 (年 2回発行)

狭山市学校支援ボランティアセンター
 <事務所>

狭山市狭山台1-21
 狭山元気プラザ内A棟3F

☎/Fax 04-2927-1395

E-mail: sayama-ssvc@bd.wakwak.com

電話受付: 月~金曜日午後1時~4時迄

子どもも大人も輝くまち・狭山 狭山市教育委員会 生涯学習部次長 内藤 光重

日頃より、SSVCの皆様におかれましては、市内全小中学校での支援活動に多大なるご貢献をいただいておりますことに敬意と感謝を申し上げます。

子どもたちにとって、変化の激しい社会を生きる力が求められるいま、学校・家庭・地域が一体となって教育“人づくり”に取り組むことが必要です。学校支援活動を通じて、家族や先生以外の大人との交流を持ち、多くの経験をするには、教科書だけでは得られない学びであり、知恵を磨き、感謝する心を育むことでしょう。

また地域社会にとっても、学校を核として地域の連携が深まり、活性化するという“地域づくり”につながっています。そして、皆様においては、ご自身のこれまでの経験や学びの成果を活用するなかで



喜びや生きがいを感じ、さらなる学びを深化させていく、まさに生涯学習社会の指針となる活躍をされています。

私は、さやま市民大学の開設に携わり、その後2つの公民館を経て現

在の職責をいただきましたが、この間に多くの市民の方に出会い、狭山の魅力は地域活動の場で輝く市民の皆さん自身であると実感しております。狭山には(ムーミン谷やアウトレットはないですが)ほかの何にも代えられない“ひと”という宝があります。

これからも子どもたちのために、子どもたちとともに、皆様方がますます輝くご活躍をされますことをご祈念申し上げます。

Cブロック支援者交流会

2019年3月28日(木)

参加者 32名、入間川兩岸の桜を見ながら散策を楽しみ、柏原の「神邊」にてランチ。桜はまだ3分咲き程度でしたが、「花より団子とおしゃべり」の一日を楽しみました。



2020 教育改革のコンセプトから、我々も学ぶことが多い

狭山市学校支援ボランティアセンター長 諸井 寿夫

世の中、大きな変容が起こっています。それは、グローバル化と世の中の価値観が非常に多様化していることかと思えます。その要因の一つは、なんとと言っても ICT（情報技術）が急速な進歩を遂げており、AI（人工知能）と共に日常的にどこでも耳にする身近な言葉になっています。この技術に加えて、さらに通信速度が今の数十倍の次世代通信である「5G」は、あらゆるモノがインターネットにつながる「IoT」の進化を加速すると思えます。

つまり「AI に仕事を奪われる」とか「生活がどんどん変化する」この対応が必要となるわけです。

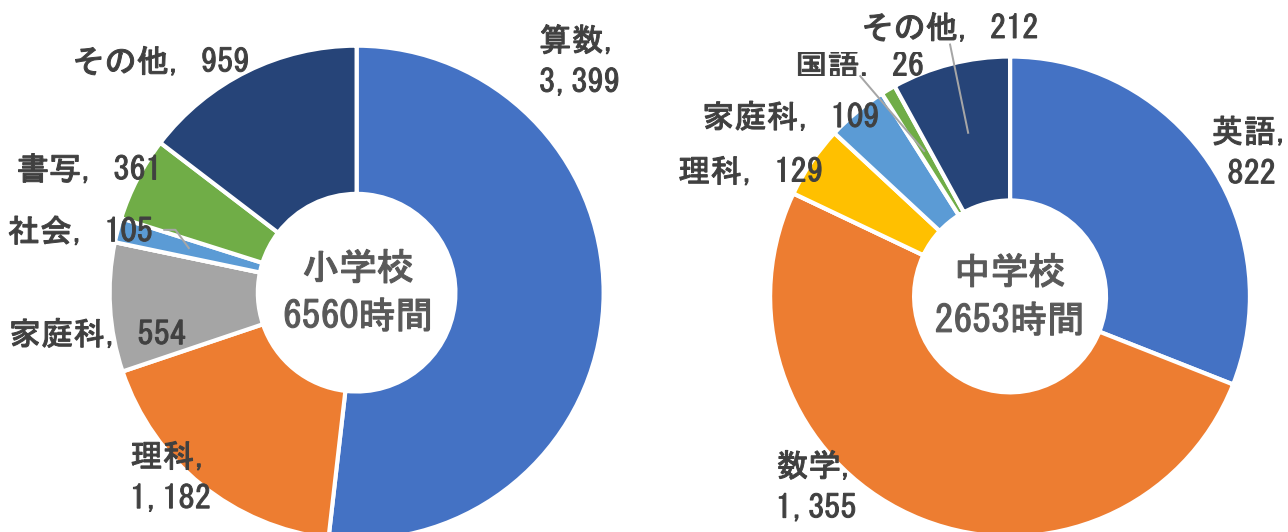
こうした状況を踏まえ、次世代の日本を支える若者の教育を新たな時代を見据えたものにする必要があります。この新たな時代に活躍できる人間に育ててもらわなくてはならないわけです。そこで「教育は、まさに激変する」ことになり、2020 教育改革の大きな柱は、大学入試共通テストの導入と学習指導要領の大改革です。そして、この教育改革の

コンセプトは、何を記憶しているかでなく、何ができるようになることが大切、つまり、基礎的な知識は必要ですが、自ら学んでいける力や意欲を伸ばすべきだとしています。複雑な世の中のこれからは、一人で生みだせないアイデアを協働して創り出して行くことが期待されています。文科省はこれを「主体的・対話的で深い学び」と言っております。つまり自分の考えを主張するだけでなく、考えの違いを認め、受け入れ、新たな考えを創造しようとする姿勢を身につけていかななくてはならない。このことは、我々の日常生活、市民活動団体の会議などでも大変重要なことと思えます。このように日本の教育界は大きな転換期を迎えますが、我々も今までの経験、知識を基に新しい時代にふさわしい「生きる力」に必要なことを一緒に学ぶことがとても大切なことと思っています。



2018 年度支援実績報告

2018 年度の学校支援は、小学校 6,560 時間、中学校 2,653 時間、合計 9,213 時間となり、SSVC 発足以来最大の支援時間となりました。支援内容については、昨年度より小学校は約 600 時間増加、特に算数が 450 時間増加しました。一方、中学校は約 400 時間減少、特に英語が 400 時間減少しました。



茶レンジスクール 市内中学校 8 校で合計 226 回実施し、参加した生徒は延べ 1,058 名、支援者は延べ 1,077 名でした。昨年度より生徒の参加は 53 名減少しましたが、中学 3 年生が高校合格の報告に来たところもあり、生徒と支援者との間に良い関係が築けたようです。

校長先生 こんにちは 24

自然に学ぶ笹井小学校

本年4月に笹井小学校に赴任いたしました。

本校は、昭和57年に開校し、今年で38年目を迎えます。

昭和59年の児童数725人をピークに児童数は減少し、今年4月に31人の1年生を迎え、総計259人11クラス（うち特別支援学級1クラス）でのスタートとなりました。市内でも2番目に小さい小規模校ですが、全教職員一丸となって、子供たち全員を育てていこうという雰囲気的大事にしています。緑豊かな本校は、平成元年になかよし野鳥園を造営、平成3年には野鳥保護で文部大臣奨励賞を受賞、令和元年の今も野鳥観察会が続いています。また、平成16年には、地域の方の協力を得て、ピオトープも完成しました。芝生ボランティア隊のおかげで、グラウンド東側の芝生も整備され、「自然に学ぶ笹井小学校」として、豊かな環境の中での教育を基盤にしています。

SSVCの方々には、いつも算数や家庭科などの



笹井小学校 校長 小山 哲也

学習支援ボランティアとしてお世話になっております。今年も11名の方々に算数の学習支援員として、つまずきが目立ってくる3、4年生の支援を中心に協力いただいています。保護者、地域の方々、SSVCの皆さんなど多くの方々の協力、支援によって学校が支えられ、地域全体で子供たちを育てていこうという「地域の力」を強く感じています。今後とも、元気いっぱい「笹井っ子」の健全育成のために温かいご支援とご協力をお願いいたします。



<冬の野鳥観察会>

学校支援だより

読み聞かせ支援

東小の「読み聞かせ」は、地域の元「読書の会」のメンバーを中心に、東小学校 学校応援団の「読み聞かせ」ボランティア支援者（PTA・地域）、元PTA及びSSVCの支援者との混成チームで行われています。

支援は、ほぼ毎週水曜日の1時限開始前の8時25分～35分の10分間に、指定された2つの学年、3クラス（竹の子は1クラス）において、支援者があらかじめ用意した絵本を用いて行います。同時に6人又は4人の支援者が必要になります。

2018年度は概ね16人で延べ29日、延べ164人で計画し、162人で実施しました。2人の

入間川東小学校 CN 関口 和信

欠席のうち、1人の持ち分は2クラス一緒に行い、1人の読み聞かせは、中止となりました。

支援者は余裕をもって確保しておきたいのが課題です。しかし、学校側は、「できる人が、できる時に、できることをお願いします。」と寛大です。

読書の会の方々のSSVCへの登録申請も進み、他の学区の仲間も加わり、多様性が見られる華やかな混成チームです。割り振りを調整するリーダーはPTAの幡野さん、チームを束ねるのは、皆に慕われるSSVCのCNの武田さんが担い、関口は、戦力として読み聞かせを担当しています。

教室から控室に戻ると、狭山茶を飲みながら本の

題名、作者名などをノートに書き込んだり、児童の反応などを話しあったりして、支援者同士の絆を深めています。お子様連れの保護者もいて情報交換にも花が咲きます。

「読み聞かせ」を持続ある支援にする為には、地域の支援者、学校応援団及びSSVCとの協働・連携を如何に楽しく行うかが大切だと思います。



Aブロック支援者交流会



2019年3月25日(月)本田技研工業(株)狭山工場を見学しました。工場内を係りの方の説明を聞きながら一回りし、まとめの説明会では鋭い質問もたくさん飛び出しました。その後に昼食会が行われ、楽しい有意義な交流会になりました。



2019年度SSVC運営委員メンバーのご紹介



後列左から：安藤・内野・角田・榎林・庄司・大竹・山田・中山（各委員）

前列左から：大邑・藤森・諸井・猪股・大内・登坂（各委員）

編集後記：AブロックとCブロックの交流会写真は、参加された方の表情が分かるように大きめにしてみましたがいかがでしょうか。SSVCの重要な役割を担うCNが、今年になって9名も誕生しました。CN2人体制に一步近づき、大変喜ばしいことです。令和の時代も、総力でSSVCの活動をさらに拡充していきましょう。
(Y.K)